

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	古賀 玉緒	職名	講師	学位	修士 (医科学) (久留米大学 2009 年)
----	-------	----	----	----	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学・助産学	周産期・更年期・教育

研究課題
<p>周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。</p> <p>更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。</p> <p>助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。</p>

担当授業科目
<p>【助産別科】</p> <p>女性の健康支援論・助産診断ケア学Ⅲ (産褥期)・助産診断ケア学Ⅳ (新生児期)・総合看護学・助産学基礎実習：(前期)</p> <p>助産診断ケア学Ⅵ (健康教育演習)・助産診断ケア学Ⅶ (助産過程演習)・助産学研究演習 (通年)</p> <p>助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習：(後期)</p> <p>【看護学科】</p> <p>母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論：(前期)、母性看護学実習・母性看護方法論：(後期)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 助産診断ケア学Ⅲ・Ⅳ 】</p> <p>助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。遠隔講義では、演習や実習に向けて知識や思考が深められることを意図し、事前学習を実施し、それをいかした具体的な支援についてグループワークにて考える機会を設けた。また、教員が助産技術の動画を作成し、演習に向けたイメージ作り、準備に活用できるよう工夫した。演習では実践に活用できることを意図し模擬患者へのロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を目指した。学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。</p>
<p>授業科目名【 助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ、助産学研究演習 】</p> <p>主に、健康教育の概要についての解説、産褥期・思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に講義内容を組み立て実施した。演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。また、学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。助産過程演習・助産学研究演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。</p> <p>リモートによる個別対応ではあったが学生のリモート環境も整っており効果的にすすめられた。</p>
<p>授業科目名【 助産学実習 (基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理) 】</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一部学内実習にふりかえて実施した。学内であっても実習目標を達成できるよう実習内容を検討し、臨地実習と併せ、特に不足する内容を学内実習で対応した。</p> <p>なお、学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。</p> <p>臨地実習では適宜、施設担当者と連絡をとり施設の受け入れ条件の確認と厳守、本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めて臨んだ。時間や実習内容に制限はあったものの集中して学ぶことができた。</p> <p>学内実習および臨地実習ともに、個々のレベルをふまえて指導方法を工夫した。</p>

授業科目名【 母性看護方法論・母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論 】

看護学科2年生、3年生を担当し、周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的変化の理解およびウェルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。なお、看護過程演習では臨床実習を見据え、得られた知識を実践で活用できるよう個人ワークや担当教員との質疑応答の時間を確保した。本年度は遠隔授業に変更となりリモートによるグループ・個人対応となったが制限された時間のなかで効果的な指導が行えるよう、事前に学習成果を提出させ教員は予め内容を確認したうえで指導のポイントをふまえて臨んだ。演習では優先度の高い技術を中心に本学の感染予防ガイドラインに沿って実施した。

ウイメンズヘルス看護論においても、少人数を担当し、個々の学生がもつ興味から、テーマや課題が導かれるようかかわった。また、遠隔授業により資料収集が困難な状況であったことから文献資料や新聞などの情報源を紹介し、学生の考察が深まるよう取り組んだ。

授業科目名【 母性看護学実習 】

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学内およびリモートによる遠隔実習を臨地実習にふりかえて実施した。実習目標を達成できるよう実習内容を検討し、本学の感染対策方針に沿って適宜、実習方法を工夫した。なお、教員間で定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえ効果的な実習指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会		2007年4月～現在に至る
日本看護研究学会		2008年4月～現在に至る
福岡県看護協会		2008年4月～現在に至る
日本助産学会		2011年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2014年5月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

入試委員、学生募集委員、学生アドバイザー